

# 第2回通常総会資料

開催日時 平成27年 7月 4日(土) 13:30~

開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター (I)

富山県農村医学研究会

## 第2回通常総会次第

日時 平成27年 7月 4日(土)

13:30~16:00

場所 富山県厚生連高岡病院

地域医療研修センター(1)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人選出(2名)及び書記指名(2名)
5. 議 事

第1号議案 平成26年度事業報告書、財産目録、収支決算書報告承認について

第2号議案 平成27年度事業計画案及び収支予算書案承認について

第3号議案 役員の改選について

第4号議案 会則の一部改定につて

特別講演 富山大学 研究推進機構 極東地域研究センター教授

酒 井 富 夫 氏

「有機農業の現状と今後について」

## 平成26年度事業報告

### I. 事業の概要

平成26年度の事業終了に当たり、事業の概況について報告致します。

今日、農業・農協の抜本改革など規制緩和は農村生活や農協運動を崩壊すると言われ、さらにTPP交渉が緊迫の度を増しています。

このような中、本会では豊かな農業・農村を維持する農業者の健康づくりについて様々な調査研究を行ってまいりました。

特に、本会設立以来、全国に先駆けて農作業事故の実態調査を続け、農水省が実施する「農作業事故の対面調査」を主導的に推進してまいりました。また、高齢者が農作業に携わる事による健康保持増進効果に関する調査も引き続き実施してまいりました。

これらの研究成果は、平成26年11月につくば市で開催された第63回日本農村医学会、並びに平成27年3月開催の第32回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会で発表してきました。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

### II. 主な事業項目の概要

#### 1. 任意団体としての「富山県農村医学研究会」設立総会

平成26年6月7日、厚生連高岡病院地域医療研修センター（I）

- ① 議 事：・第1号議案 平成25年度事業報告書、収支決算書の承認  
・第2号議案 平成26年度事業計画書案、収支予算書案の承認  
・第3号議案 役員の一部改選について  
・第4号議案 顧問の承認について

#### ②特別講演

講師 富山県農村医学研究会 会長、富山大学名誉教授

鏡 森 定 信 氏

「私の研究史からみた 農村と健康」

#### 2. 研究調査活動

##### (1) 農業災害事故調査

農作業事故の臨床例調査を県内のすべての外科、整形外科、皮膚科、眼科、脳神経外科、ICU、接骨院を対象に約830カ所に往復はがきで、農作業事故の臨床例の有無を問い、「有り」と回答の有った医療機関に詳細調査表を送付し、農作業事故臨床例の収集に努めた。

なお、全共連の機構改革により昭和45年以来続けていました全共連県本部の生命共済、傷害共済より検索する農作業事故調査は昨年と同様調査出来ませんでした。その結果、臨床例は41件であり、農機事故は、トラクター6例、コンバイン3例、耕耘機2例、草刈機2例、籾摺り機1例、乾燥機1例の順で、農機外では26例でした。死亡事故は、農機

がトラクター1例、コンバイン1例、農機外が4例のうち2例熱中症でした。

## (2) 農作業事故のケーススタディ

農村における農作業事故のケーススタディについて全国における調査事例は、富山県における調査事例を含め110例となりました。

## (3) 高齢者の骨密度と生活習慣の関連について

継続して高齢者の骨密度測定を実施した。今後、高齢者の骨粗鬆症予防の指針を示す必要がある。

## 3. 各種研究会参加

### (1) 第63回日本農村医学会

- ・開催日 平成26年11月13日(木)～14日(金)
- ・開催場所 つくば市 つくば国際会議場(エポカルつくば)
- ・会員発表 7題

#### ① 支援形態の違いによる特定保健指導の効果の検討

—グループ支援と個別支援等を比較して—

厚生連高岡健康管理センター 若松 沙保里他

#### ② 農作業事故におけるハインリッヒの法則の検証

富山県農村医学研究会 吉田 稔他

#### ③ コミュニティを基礎とした花粉症発症予防対策のための空中花粉測定の有用性

富山県協立病院 寺西 秀豊

#### ④ 慢性硬膜下血腫除去術の再発に関する検討

厚生連高岡病院脳神経外科 原田 淳

#### ⑤ 各種農作業における代謝量について—特に高齢者について—

富山県農村医学研究所 大浦 栄次他

#### ⑥ 福島原発事故とエネルギーの将来像

富山県農村医学研究所 安藤 満

- ・シンポジウム2 農作業事故防止対策—農作業事故実態調査と横断的取り組み—

農作業事故の対面調査

富山県農村医学研究所 大浦 栄次

### (2) 第32回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日 平成27年3月1日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(1)
- ・会員発表 7題

#### ① 10年間のBMI増減と生活習慣に関わる検査データの関連

厚生連高岡健康管理センター 小杉 久子他

#### ② BMI値正常維持群と肥満維持群の生活習慣の特徴

厚生連高岡健康管理センター 佐武 千佳子他

#### ③ 当院における健康診断の受診実績及びその傾向

医療法人社団博友会金沢西病院 奥 里美、加藤 奈緒他

- ④ 10年間のセルフモニタリングによる生活習慣見直しの課題  
富山県厚生連健康福祉課 大浦 栄次
- ④ 女性パワーが地域を元気に！！  
JA氷見市女性部島尾支部 村田 美知子他
- ⑤ オーストラリアの花粉症について  
富山県農村医学研究会 寺西 秀豊
- ⑦ イ病資料館における小学生の学習状況  
富山県立イタイイタイ病資料館 鏡森 定信

### Ⅲ. 主な行事（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

年.月.日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
26.5.～ 26.5.22	高齢者の骨密度と生活因子に関する調査 役員会	J Aいなば他 厚生連高岡病院会議室3
26.6.7 26.8.13 26.10.7	第1回総会 役員会 富山県農業災害事故実態調査（前期）	厚生連高岡病院地域医療研修センター1 厚生連高岡病院会議室3 県内医療機関
26.11.13 ～14 27.1.20 27.2.10 27.3.7	第63回日本農村医学会総会 役員会 富山県農業災害事故実態調査（後期） 第32回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会	つくば市（会員発表7題） 厚生連高岡病院会議室3 県内医療機関 厚生連高岡病院地域医療研修センター1 （会員発表7題）

### Ⅳ. 総会

#### 第1回総会

総 会 日 現 在 会 員 数		308名
出席会員数	実際に出席した会員数	35名
	委任状数	150名
	計	
重要なる議事及び議決事項 第1号議案 平成26年度事業報告・収支決算書承認について 原案承認 第2号議案 平成27年度事業計画案・収支予算書案承認について 原案承認 第3号議案 役員の一部改選 原案承認 第4号議案 顧問の承認について 原案承認 ※議事終了後、講演会を開催 特別講演 講師 富山県農村医学研究会会長 富山大学名誉教授 鏡森定信氏 「私の研究史からみた 農村と健康」		

# 財 産 目 録

(平成27年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	2, 1 7 1, 4 7 2円	
計	2, 1 7 1, 4 7 2円	

## 監 事 の 意 見 書

平成27年6月12日に会長理事から提出された第1年度の事業報告書、財産目録、収支決算書の各事項について監査致しました。その結果、以上の内容は適正なものと認めます。

平成27年 6月12日

富 山 県 農 村 医 学 研 究 会

監事 西 川 藤 樹 印

監事 田 中 茂 弘 印

# 平成26年度収支決算書

(自平成26年04月1日～平成27年03月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	308,000	319,000	11,000	
会費	308,000	319,000	11,000	308人×1,000円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	0	
特別負担金	870,000	870,000	0	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	0	厚生連より繰入
雑収入	100	276	176	
雑収入	100	276	176	利息など
前期繰越金	1,254,341	1,254,341	0	
収入計	3,032,441	3,043,617	11,176	

支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会議費	200,000	197,425	-2,575	
総会費	100,000	130,277	30,277	資料、会場費、講師料他
役員会費	100,000	67,148	-32,852	役員会3回
事業費	2,425,000	407,094	-2,017,906	
研究調査費	1,500,000	18,360	-1,481,640	各種調査研究
専門委員会費	25,000	0	-25,000	〃 打合せなど
研究集会費	50,000	101,842	51,842	発表集会抄録、会場費ほか
会誌発行費	700,000	0	-700,000	
編集委員会費	20,000	0	-20,000	
通信費	50,000	162,632	112,632	電話代他
消耗品費	30,000	124,260	94,260	コピー代他
備品・什器	50,000	0	-50,000	
旅費交通費	220,000	157,520	-62,480	
旅費交通費	220,000	157,520	-62,480	日本農村医学会・参加費
雑費	140,000	10,216	-129,784	
雑費	140,000	10,216	-129,784	
予備費	47,441	99,890	52,449	
予備費	47,441	99,890	52,449	法人解散官報広告掲載料
支出計	3,032,441	872,145	-2,160,296	
次期繰越金	0	2,171,472	2,171,472	

## 平成27年度事業計画（案）

### I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

### II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
  - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
  - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
  - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
  - ・農薬中毒の実態調査
  - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
  - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
  - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の生活習慣病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
  - ・農村における高齢者に関する調査研究
  - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
  - ・都市近郊農村における社会医学的研究
  - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
  - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染およびその変化と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

### III. 主な事業計画

#### 1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究



- ①富山県における農業災害事故調査
  - ②農業災害事故のケーススタディ
  - ③高齢者の農作業安全に関わる調査研究
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
- ①農薬散布者の健康調査
  - ②有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
- ①農村地区における花粉症に関する調査研究
  - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
- ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
- ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
- ①農村における熱中症など温暖化影響に関する調査研究
  - ②農村における自然エネルギーの実態と利用の将来的可能性に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
- ①食生活と健康に関する調査研究
  - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
  - ③農村におけるメタボリックシンドロームの実態とその対策
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
- ①農村における健康管理運動に関する調査研究
  - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
- ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
  - ②農村高齢者の農作業と骨密度の関連に関する調査研究
  - ③農村における介護および認知症等に関する調査研究
- (10) その他、農山漁村における各種健康・保健調査の実施

## 2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 第33回富山県農村医学研究及び健康管理福祉活動発表集会の開催  
平成28年3月5日(土)、厚生連高岡病院
- (2) 第64回日本農村医学会および日韓農作業安全シンポ、ワークショップ  
開催日時：平成27年10月22日、23日

開催場所：秋田市

3. 会誌等の印刷物の発刊
  - ①会誌の発刊
  - ②農村医学に関する啓蒙資料の作成
  - ③その他
4. その他目的達成に必要な事業

# 平成 27 年 度 収 支 予 算 書

(自平成 27 年 0 4 月 1 日～平成 28 年 0 3 月 3 1 日)

収入の部

項 目	予算額	備 考
会 費 収 入	306,000	
会 費	306,000	306 人×1,000 円
特別負担金	1,470,000	
特 別 負 担 金	870,000	870,000 円 (厚生連)
調 査 研 究 協 力 費	600,000	厚生連より繰入
雑 収 入	100	
雑 収 入	100	利息など
前期繰越金	2,171,472	
収 入 計	3,947,572	

支出の部

(単位：円)

項 目	決算額	備 考
会 議 費	250,000	
総 会 費	150,000	資料、会場費、講師料他
役 員 会 費	100,000	役員会 3 回
事 業 費	3,005,000	
研 究 調 査 費	1,500,000	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	25,000	"    打合せなど
研 究 集 会 費	100,000	発表集会抄録、会場費ほか
会 誌 発 行 費	1,000,000	
編 集 委 員 会 費	20,000	
通 信 費	180,000	電話代他
消 耗 品 費	130,000	コピー代他
備 品 ・ 什 器	50,000	
旅費交通費	220,000	
旅 費 交 通 費	220,000	日本農村医学会・参加費
雑 費	140,000	
雑 費	140,000	
予 備 費	332,572	
予 備 費	332,572	
支 出 計	3,947,572	
次期繰越金	0	

第3号議案 役員の改選について

H27.6.13

理 事	役 職
鏡 森 定 信	富山産業保健総合支援センター所長
飯 田 恒	県農業技術課 課長
安 藤 満	元富山国際大学 教授
寺 西 秀 豊	元富山大学医学部公衆衛生学教室 准教授
小 川 忠 邦	老健施設みしま野苑一穂 施設長
草 野 亮	北陸メンタルヘルス研究所 代表取締役
酒 井 富 夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター 教授
亀 谷 富 夫	厚生連高岡健康管理センター所長
北 川 清 秀	厚生連高岡病院 院長
南 里 泰 弘	厚生連滑川病院 院長
稲 生 暁 春	厚生連滑川病院 神経内科診療部長
山 本 康 雄	富山県農協中央会農業対策部 部長
渡 辺 竜 一	全農富山県本部生活燃料部 部長
荻 野 孝 次	富山県厚生連 代表理事理事長
大 浦 栄 次	富山県厚生連 健康福祉アドバイザー
谷 井 悦 子	富山県農協女性組織協議会 会長
大 平 真 也	富山県農協青年組織協議会 会長
水 野 小夜美	富山県高岡地区生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
田 中 茂 弘	厚生連滑川病院 副院長
西 川 藤 樹	富山県厚生連 常務理事

顧 問	役 職
石 田 礼 二	富山市民病院名誉院長
加 須 屋 実	富山大学名誉教授
寺 中 正 昭	寺中クリニック 院長
菊 池 誠	金沢西病院 理事長
熊 谷 武 夫	元高岡市保健センター 所長

退任 厚生連高岡病院 副院長 長谷田 泰男  
 富山県農業技術課 課長 石黒 哲也  
 富山県農協青年組織協議会 会長 大江 利男

#### 第4号議案 会則の一部改定について

会則第7条 本会に、理事若干名、監事2名の役員をおく。役員は総会において選任する。理事は互選により会長1人を定めるものとし、また必要に応じて副会長2人を定めることができる。なお、理事および監事は相互に兼ねることができない。

2 役員任期途中交代については、前任の残任期間をもって役員を選任することができる。

# 富山県農村医学研究会 会則

富山県農村医学研究会

# 富山県農村医学研究会 会則

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は富山県農村医学研究会という。

(事 務 局)

第2条 本会は事務所を高岡市永楽町5番10号におく。

(目 的)

第3条 本会は農山村の実態に立脚して、医療と保健に関するすべての問題を調査研究し、健康な農山村生活を築くために寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条

- (1) 農山村に関する医学的調査、研究ならびに保健福祉活動
- (2) 保健福祉に関する啓蒙ならびに会報その他必要な印刷物の発行
- (3) 研究発表会ならびに講演、講習会の開催
- (4) 日本農村医学会ならびに関係研究会との連絡および協力
- (5) その他目的を達するための必要な事業

## 第2章 会 員

(会 員)

第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同して入会した者とする。

(会 費)

第6条 本会の会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

## 第3章 役員および顧問等

(役 員)

第7条 本会に、理事若干名、監事2名の役員をおく。役員は総会において選任する。理事は互選により会長1人を定めるものとし、また必要に応じて 副会長2人を定めることができる。なお、理事および監事は相互に兼ねることができない。

2 役員任期途中交代については、前任の残任期間をもって役員を選任することができる。

(職 務)

第8条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

2 理事はあらかじめ会長に事故があるとき、または会長が欠けたとき、その職務を代行するものを定めておくものとする。

- 3 理事は、理事会を構成し会務の執行を決定する。
- 4 監事は、会務の執行状況および財産の監査を行う。

(顧問)

- 第9条 本会に顧問をおくことができる。
- 2 顧問は理事会において推薦し、総会の承認をうるものとする。
  - 3 顧問は理事会に出席し、意見をのべることができる。

(任期)

- 第11条 役員、顧問の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

(運営委員)

- 第10条 本会の運営を円滑にするため必要に応じて運営委員会を置くことができる。運営委員会は、会務全体の執行について意見を言うことができる。運営委員は会長が委嘱する。任期は2年とする。

(事務局)

- 第12条 本会に事務局をおき、事務局に事務局長および事務局員若干名をおく。
- 2 事務局長および事務局員は、会長が委嘱する。

## 第4章 会 議

(種別)

- 第13条 本会の会議は、総会および理事会、総会は通常総会および臨時総会とする。

(構成)

- 第14条 総会は会員をもって構成し、理事会は理事をもって構成する。

(職能)

- 第15条 総会は、次の各号に掲げる事項を議決する。
- (1) 事業計画および収支予算の決定
  - (2) 事業報告および収支決算の承認
  - (3) その他本会の運営に関する重要な事項
- 2 理事会は、次の各号に掲げる事項を議決する。
- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
  - (2) 総会に付議すべき事項
  - (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

- 第16条 通常総会は毎年1回5月または6月に開催する。  
臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、または会員の5分の1以上から会議



の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

- 2 理事会は会長が必要と認めたとき、または理事の4分の1以上から会議の目的たる事項を示し請求があった時に開催する。

(招 集)

第17条 会議は会長が招集する。

- 2 総会を招集するには、会員に対し会議の目的たる事項および場所を示して開会の10日前までに通知しなければならない。

((議 長)

第18条 総会の議長はその総会において、出席会員のうちから選任する。

- 2 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(定 足 数)

第19条 会議は総会においては会員、理事会においては理事の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議 決)

第20条 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。この場合において議長は、会員として議決に加わる権利を有しない。

- 2 理事会の議事は、出席理事の同意をもって決する。

(書面議決等)

第21条 やむを得ない理由のため会議に出席できない会員、または理事はあらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、または他の構成員を代理人として表決を委任することができる。この場合において前2条の規定の適用については、出席したものとみなす。

(議 事 録)

第22条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時および場所
- (2) 会員または理事の現在数
- (3) 会議に出席した会員の数または理事の氏名  
(書面表決者および表決委任者を含む。)
- (4) 議決事項
- (5) 議事の経過
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長および出席した会員または理事のなかから、その会議において選出された議事録署名人2人以上が署名しなければならない。

## 第5章 会計

(会計)

第23条 本会の会計は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金品
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他収入

(事業年度)

第24条 本会の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

附則

本会則は、平成25年12月1日より施行する。

一部改訂 平成27年7月4日

# 投 稿 規 定

**募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

**投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

**原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山県高岡市永楽町5番10号）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

## 論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostigmin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Mocacus rlesus, 山椒藻 Salvinabatah 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m, センチメートル cm, グラム g, キログラム kg 等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロン（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。（図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）  
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（末記）して下さい。

**無 料 掲 載** 原稿用紙20枚（刷り上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

**有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷り上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

## 文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和52. 5のごとく）。
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所の頁を最後に）

**印 刷** 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じてます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

## 編集後記

日本の農業を取り巻く状況は、農業者の減少や農業従事者の高齢化の進行、改正農協法の成立やTPP交渉の大筋合意といった大きな変革は、生産現場における不安と混乱を拡大させています。一方、農業従事者の農作業事故は、農業機械の講習会や事故防止キャンペーンなど対策を講じていますが、なかなか減りません。日本農村医学会では、農水省の委託事業として平成27年度農林水産省補助事業「農作業安全・高度な栽培技術確立事業（（リスクアセスメントに基づく農作業時の安全確保技術の確立）」を受託し、今回、内容を「報告」日本の農作業におけるリスクアセスメントの考え方―大浦栄次が掲載しています。

当会のホームページで過去の会誌を時々読みながら、諸先生方が調査研究にご尽力されていたか、当会の果たす役割などを勉強させていただいております。

最近、農業機械を操作する人の騒音暴露について、個人農家や農業法人に調査測定に出向いています。最初は、私の説明不足もあり農業機械の騒音調査と勘違いされ、調査に非協力的で何とも間拔けた話です。

今回は、投稿数が少ないものになりました。本会の活動は、医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力によって実施されてきました。

今後とも、多くの方々の投稿を期待します。

(M. Y)

---

富山県農村医学研究会誌 第34巻 平成28年6月25日印刷・6月30日発行

富山県高岡市永楽町5番10号 電話 (0766) 21-3930

編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 吉田 稔

印刷所 中央印刷株式会社 富山市下奥井1-4-5 電話 (076) 432-6572

---